

「子どもが育つ」教育環境！

～ いいことは進んで あたり前はくりかえす 凡事徹底 ～

2学期も終わり、明日から冬休みとなります。実りの秋、収穫の秋の2学期はどうでしたか？2学期や年度当初に掲げた目標は達成できたでしょうか？

さて働きかけを素直な心で受け止めて、行動にうつすことが、【育ち】に関係してきます。心の輝きが、行動の輝きになり、成果が輝きます。学校全体で足並みをそろえて一つのことをやることによって、その成果が望めます。小さなことでもみんなで取り組み、勉強の力、心の力、体の力のいろいろなところに成果が出ている松波小学校です。

心の輝き！笑顔の輝き！

11月14日に令和5年度石川県教育委員会指定「いしかわ道徳教育推進事業」の研究発表会がありました。【レジリエンスを高める Build resilience】を合言葉に、話し合いの姿勢を大切に、心情と行動の変容を求めて現在道徳授業や教育活動に取り組んでいます。子どもたちや先生が共に頑張っている様子を見て、教育委員会の皆さん、能登町内外の先生方からとても素晴らしいと感心のことばをたくさん頂きました。



やる気や能力を引き出すために！ ～失敗の経験にこそ価値～

子どものやる気や能力を引き出したいと願う気持ちは、先生も親も同じです。先日読書をしていて、子どもの思考力や自主性を育てるために何を心がけたらいいのか、元筑波大学附属小学校の田中博史副校長のお話を読みました。

- ・筑波大学附属小学校は、子どもたちの意思に任せて実行させる機会を多くとっています。子どもの考えるスイッチが入るのは、自分自身が困って疑問に思った時に入ります。できてあたり前と思うようなことに、褒めるポイントがたくさんあります。ちょっとした頑張りを見つけたら さりげなく声をかけてあげましょう。評価するのではなく認めるという感覚です。
- ・正解至上主義は、考える力を弱らせます。答えが誤りでも、勇気を出して発言すれば世界が広がり、対応する力もぐんぐん上がります。失敗を重ねても、関心をもって取り組む姿勢が大切です。

完璧でなければならぬとしぼりをいれると、うっかり失敗できません。失敗の経験を大切にして、無駄に見えること自体に価値があると考え、頑張りを見つけて褒めていきたいものです。

保護者・地域の皆様方、今年1年ご支援・ご協力いただき誠にありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。良いお年をお迎えください。

能登町立松波小学校
校長 宮本 秀人